

## FSCセンター長就任挨拶

寒冷フィールドサイエンス教育研究センター長 教授 澤口勇雄

平成27年4月1日付けで寒冷フィールドサイエンス教育研究センター長に就任いたしました。前任の佐川 了教授に引き続きご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

本センターは、平成14年4月に旧附属農場と同演習林を統合し、農学部におけるフィールド教育の充実・発展と地域貢献への一層の寄与を目的に組織されました。爾来、13年余を経るなかで、センターとして多くの実績を残して参りました。特筆されるのは、農学部新生生全員が下台圃場で農作物を栽培し、構内植物園で植物観察するとともに、夏季休業中に御明神ステーション（御明神牧場・演習林）或いは滝沢ステーション（滝沢農場・演習林）でフィールド体験をさせる実習だと思います。岩手大学における農学教育の原点はフィールドですが、学部学生全員がFSCフィールドを体験することはやはりかけがえのない体験になると確信しています。この他にも多くの実習を実施するとともに、鹿児島大学や盛岡大学などの他大学のみならず、支援学校の農業体験実習にも取り組んで来ました。また、農業・畜産業・林業の専門家に対する講座や一般社会人・児童生徒などに広くフィールドを公開するセミナーなど、数多くの地域貢献事業を実施するなど、センター発足時に想定していた以上の成果、実績を重ねてきたと自己評価しております。

小職はセンター長としては5代目になりますが、今までの取り組みを更に深化させたいと考えております。国立大学法人化されたことが本センターにも大きな影響を及ぼし始めています。特に、第三期中期計画からは予算事情が一層厳しくなることなどが予測されておりますが、新たな状況に対応したセンターづくりを教職員とともに進めて参りたいと存じますので、よろしくお願い申し上げます。

## 赤坂 茂さん(技術職員)が 平成27年度全国大学附属農場協議会技術賞を受賞

持続型農業生産技術分野長 助教 平田統一

去る8月27日に金沢市で開催された秋季全国大学附属農場協議会において、技術職員の赤坂 茂さんが平成27年度全国大学農場技術賞を受賞されました。赤坂さんは昭和52年に技能員として採用され、以来38年間岩手大学に勤務し、現在は農学部附属寒冷フィールドサイエンス教育研究センター（御明神牧場）で動物部門に係わる業務、実習指導、研究補助を行っています。また、岩手大学技術部農学系第一技術室長を務めておられます。受賞業績名は「ウシの繁殖管理、酪農生産、衛生管理技術の実証と展開による教育、研究および地域社会への貢献」で、優れた生産管理技術の開発・継承、教育・研究への貢献、地域貢献活動が評価されたものです。

受賞講演では多くの取り組みの内、滝沢農場の旧酪農部門で挑戦した、平成15年から20年にかけてのジャー種乳牛飼養の取り組みを紹介しました。昼夜放牧を主体としたストレスが少ない飼養方法、遺伝子組換えが

ない国産穀物や自家産牧草しか与えないこだわりの餌、乳化処置を行わず低温殺菌法を採用し、学生がデザインした牛乳瓶に詰め、牛乳本来の風味を活かした岩大牛乳を関東地方にも販売しました。残念ながらこの野心的な取り組みは人的、予算的、制度的な背景により、滝沢農場酪農部門ごと継続できませんでしたが、岩手大学の農学部・附属農場として特徴のある実習・研究のあり方、附属農場の運営の仕方などに示唆を残した取り組みでした。

本賞受賞は赤坂さんのみならず、終始ご指導いただいた共同獣医学科の岡田啓司先生始め関連する教職員、技術職員の協業の成果と心から感謝するものです。



## 6月17日、滝沢農場で降雹害

持続型農業生産技術分野 助教 渡邊 学

平成27年6月17日午後に滝沢農場の一部で降雹がみられた。当日は昼過ぎより雨が降り始め、次第に猛烈な暴風雨となった。一時は窓ガラスに激しく打ちつける雨で外の様子が全く見えない状況であった。滝沢農場の雨量計では14～15時の1時間に57mmの降雨を記録し、降雨は約90分間続き、降雹はこの間のわずかな時間であった。降雨後、農作物の状況を確認したところ、リンゴ、モモなどの果樹とダイズで雹害が大きかった。リンゴでは、これまで順調に生育していた若い果実に雹が当たり窪みができ(写真1)、その状況から雹は大きいもので径10mm以上に達していたものと思われた。リンゴ園全体の約8割もの果実に降雹による傷がみられた。表面の傷だけではなく、果皮直下の果肉が褐変したものも多くあった。いずれにしても商品性が著しく損なわれ、今年度はリンゴの贈答用販売は不可と判断した。また、自家用も「わけあり」として販売せざるを得ない状況となった。ダイズでは、初生葉が損傷し(写真2)、生育が一時的に抑制された。しかし、生育初期であったため、収穫物への直接的な被害は免れた。その他、風雨によりスイート

コーンの倒伏や表土の浸食もみられた。以上のような降雹害は滝沢農場開設以来初めてのことであった。

奇しくも今年度よりFSC予算配分に「収入見合い」が導入された。滝沢農場では、雹害により今年度の果樹の収入が大幅に減少することが確実である。農作物の豊凶は気象の影響を大きく受け、近年頻繁に生じる異常気象による農作物の被害は今後も予想されることである。このような農業現場における自然災害における収入減という事情を十分に配慮した予算査定を切に要望するものである。



写真1/雹害を受けたリンゴ果実



写真2/雹害を受けたダイズ初生葉

## 御明神地区の一ノ渡橋が復旧

循環型森林管理技術分野 技術室長 佐々木一也

一昨年(平成25年)8月に東北地方の一部を襲った集中豪雨により、寒冷FSC中山間フィールドステーション(御明神牧場・御明神演習林)へ通じる唯一の通行道に架かる橋(「一ノ渡橋」)が崩落した(FS NEWS No.21)。教職員の通勤はもとより、フィールド管理や学生実習等のための大型車両も日常的に渡ってきた橋であるだけに、崩落の影響は非常に大きかった。緊急避難的に確保した御明神牧場牧草地内の簡易道を通行しての往来が、ふた冬を越え、学外関係者にもいろいろと不便をかけることとなり、心苦しさの中でフィールドステーションを運営する日々が続いた。

あれから約1年8カ月後の今年3月、一ノ渡橋が新たに完成した。100年に一度、とも言われる今回の規模の大雨に遭ってもビクともしないであろう頑丈な礎に、一見その場の景色に突然出現したかのように堂々たる橋が凜として架かっている。今後、さらに一人でも多くの学生、研究者、市民等が、この橋を渡ってフィールドを訪れてくれることを切に願っている。

被災後、多大なご理解、ご指導、ご支援をいただいた方々、災害復旧事業にご尽力いただいた方々に、改めて厚くお礼申し上げる次第である。



H25.8.9 橋崩落時



完成後



どうぞお越しください

岩手大学農学部附属寒冷フィールドサイエンス教育研究センター

〒020-8550 盛岡市上田3丁目18-8 TEL:019(621)6234

E-mail:fsciu@iwate-u.ac.jp http://news7a1.atm.iwate-u.ac.jp/fsciu/

発行責任者/寒冷フィールドサイエンス教育研究センター長 澤口 勇雄  
編集責任者/寒冷フィールドサイエンス教育研究センター 山本 信次